令和４年度研究成果概要一覧

◆教員名：鈴木健生

主要研究テーマ

①保育者における効果的なコーチングスキルの活用方法

②高校生における協同学習への認識と協同学習活動のなかでの行動

研究成果の概要

①保育者における効果的なコーチングスキルの活用方法

短大学の学修の場においてアクティブ・ラーニングを開発するにあたって、ペアワーク、グループワークなどの場面を多用する。そのような場において、情報伝達の際に発信側の意図と受信側の解釈に相違があるミスコミュニケーションが発生したり、対話が曖昧なまま進められ、深い学びを引き起こせなかったりすることが観察される。本年度も「教育方法と技術」「教職概論」「キャリアデザインⅠ」の授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業するために、コーチングスキルを活用した対話活動を実践した。

②高校生における協同学習への認識と協同学習活動のなかでの行動

授業において学習者が能動的に学習に参加するよう促す教授・学習法であるアクティブ・ラーニングの高等学校への導入が進んでいる。この学習指導の中核に位置づく協同学習に全校をあげて取り組んでいる高校の生徒を対象とし、協同学習への認識と協同学習での実際の行動について回答を求める質問紙調査を行った。これらの結果をもとに、生徒の個人差を考慮してタイプ分けする必要性、生徒が３学年にわたり協同学習の経験を重ねるためにかえって協同学習についての認識が薄れる可能性、授業のなかで協同学習をする生徒の実際の行動を記録する工夫、について考察を行った。

◆教員名：平松喜代江

主要研究テーマ

社会的養護下にある児童の進路実現と支援に関する研究

研究成果の概要

研究成果として、共著にて「希望進路を目指すまでのプロセスに関する研究－社会的養護下の高校生への面接調査から－」をテーマとして、日本社会福祉学会第 70 回秋季大会（2022 年 10 月）へ研究発表を行った。論文発表としては、単著にて「児童養護施設職員の進路選択における進路観の変化」をテーマとして、ユマニテク短期大学紀要 Vol.7（2023 年 3 月）および、単著にて「児童養護施設在籍者の大学への進学支援に関する研究」をテーマとして中部学院大学大学院博士課程学位論文（2023 年 3 月）を発表した。

◆教員名：川勝泰介

主要研究テーマ

児童文化財としての絵本の活用について

研究成果の概要

児童文化財としての絵本を保育の中でどのように活用すればよいのかについて、主に昔話絵本を中心に考察し、その成果を昨年に引き続き本学図書館でのミニ企画展において披露した。

なお今年度は、これまで蒐集してきた「三びきのこぶた」60 冊と「赤ずきん」46 冊に加えて、日本の昔話を代表する「桃太郎」25 冊を比較展示した。

これらの研究成果は、現在まとめているところであり、近日中に発表する予定である。

また日本子ども社会学会紀要『子ども社会研究』第 27 号に書評「松崎行代著『遊びからはじまる』(世界思想社、2020 年)」を執筆したほか、『保育職・教職をめざす人のための保育用語・法規』(ミネルヴァ書房 2023 年春刊行予定)に「メルヘン」「宮沢賢治」「紙芝居」「児童文化」「児童文学」「童心主義」の項目について執筆した。

その他、同志社大学社会学部メディア学科竹内オサム研究室発行の『ビランジ』50 号に連載原稿を投稿し掲載されたほか、北勢エリアの子育てファミリー応援フリーマガジン『きらきら』における絵本紹介を 2 回担当した。

◆教員名:伊藤康明

主要研究テーマ

ICT を活用した領域「環境」の教材開発

研究成果の概要

・授業科目「生活とかがく」「幼児の環境」に関する教材・教具の開発、実験や制作実習教材の作成など、いずれも学生が自然に興味・関心を持つような観点で工夫した。これらの教材は、学生が身近な素材を利用して家庭で復習できるものであり、その結果は Glexa を利用することにより、画像または動画を添付して随時提出する。次回の授業では、これを一括ダウンロードし、学生間で他学生の実験結果を共有し評価することにした。

・科学教材のデータを効率的に収集するため、Web スクレイピングの技法を研究し、python による画像収集のためのプログラムを開発した。

◆教員名:安藤恭子

主要研究テーマ

造形に関わる乳幼児の情操を養い、表現力を豊かにすることのできる将来の保育者としての能力を培うための教材研究

研究成果の概要

・教材の開発をシラバスに取り入れ、授業実践ができた。とりわけ、共同制作の充実を図り、画材の組み合わせや、表現方法の交流等を活発に行い、20 メートルに及ぶ絵画作品を様々な技法で完成させ、ユマニテク短期大学祭に展示発表できた。

・年間を通して執筆している崩文書林出版「幼児造形の基礎」を教科書として、教材ごとに活用できた。

・毎回の自作資料及び作品はファイルに整理し、学習成果の見える化を図った。

・みえアカデミックセミナーの講師として三重県文化会館にて「こどもの絵に学ぶ」と題して講演した。この内容は研究テーマにアプローチするものであった。

◆教員名:山野栄子

主要研究テーマ

教材研究や授業内容の検討に関すること

保育者の専門性と質の向上に関すること

研究成果の概要

日本保育学会や日本虐待防止学会などのオンライン研修に参加し、今年度は主に「子どもの主体性を育む関わり」「子どもの権利」等について学び、そのことを授業の内容や様々な研修会に取り入れ活かした。

コロナ禍で保育職が担う仕事は「エッセンシャル・ワーク」として注目され重要性が増している中で、いわゆる他のケア労働と通底するケアの営み・価値などについて考察し「ケア論からみた保育の専門性」について共同研究し日本保育学会で発表した。一方、三重県幼児教育センターのアドバイザーとして鈴鹿市や鵜殿村で開催された研修の講師や三重県保育総合研修会の分科会の助言者として携わった。また子育て支援員認定研修、家庭教育学級講座、ファミリーサポート養成講座などの講師も務め、現場の教育・保育の資質向上に研究成果や学びを活かして、地域貢献にも役立てた。

◆教員名：伊藤健次

主要研究テーマ

CLISP-dd の際標準化と公刊

＊CLISP-dd（発達障害児のための発達検査）

研究成果の概要

CLISP-dd は、出版社都合により、現在未公刊となっており、令和 5 年中には出版予定となっている。

◆教員名：桂山たかみ

主要研究テーマ

保育養成課程の学生に対して、音楽指導能力を培うための教材開発や授業研究

研究成果の概要

四日市市主催による、こども芸術体験事業の一環として、児童・生徒の身近な場で優れた生の演奏や姿に触れるという、四日市市の音楽文化の振興と文化の担い手の育成する事を目的とした、学校訪問事業に貢献した。また、研究課題でもある絵の楽譜による器楽合奏の編曲などを使用し、幼稚園や小学校などで実演、四日市市民大学では講師として講義を行った。

◆教員名：松本亜香里

主要研究テーマ

・子どもの心身発達にかかわる保育教材および指導法研究

・ピアノ演奏技術および表現研究

研究成果の概要

保育者養成 1 年次の学生は高校までの教科教育の流れから、保育者養成での学びも科目単 位で区切る傾向がみられる。そこで、1 年次前期に開講されている「表現指導法」の授業の試み から、基礎ゼミナールや実習指導まで、科目間の連携により理論と実践の学びをつなげる設定を 工夫した。指導法の土台として、学生自身がそれぞれに具体的な保育者像を描き、こどもとどの ようにかかわっていきたいか、どのような保育を理想とするか、自身に問いかけ学び続けるという 意識付けを目標とした。目標達成に向け、教員間で授業や学生の様子を共有し、授業改善に努 めた。学会発表では、継続して行っている「楽しさ」にかかわる研究を、保育者養成段階での学生の意識について分析を行い、成果をまとめた。本年度は、体調不良により、当初の予定より成果は達成していないが、先にも述べた「こどもの姿の捉え方」と「保育表現指導法」「保育 教材研究」に着目し、学会発表 1 本を研究成果として残した。また、演奏技術および表現研究について、演奏活動を 2 回、講演を 2 回実施した。

◆教員名：田村禎章

主要研究テーマ

・地域福祉の主体形成の効果的支援とその方法に関する研究

・レクリエーションの支援方法に関する実践的研究

・ICT教育の推進と効果的・効率的な福祉教育実践に関する研究

研究成果の概要

令和 4 年度については、「教育リフレクション」に関する研究、レクリエーション実践研究と 2 本の論文を記述した。学会発表は、教育システム・ICTに関する報告 2 本、レクリエーションに関する研究報告 1 本、ダイバーシティを研究テーマとするもの 1 本と合計 4 本実施できた。その他、社会活動実績においては官公庁や公的団体を中心として 11 本の講演、研修活動等の招聘を受けた。公的組織等における役職は9を数えている。来年度以降も、さまざまな場面における、学習者の福祉教育、地域福祉の主体形成をテーマとして研究成果を残していきたい。

◆教員名：伊藤喬治

主要研究テーマ

・ノルウェーにおける保育者・教員養成制度に関する研究

・高等教育機関における ICT ツール導入の課題に関する研究

研究成果の概要

①ノルウェーの保育現場で頻繁に用いられている概念である「民主的であること(demokratik)」について検討を行い、その結果を日本保育学会第 75 回大会において発表した。研究の内容としては、根拠法では直接的に民主主義的という言葉で言及している部分は多くなかった一方で、多様な幼稚園の活動に対して子どもたちが意志を表明し主体的に参加すること、保育のカリキュラムは子どもと保育者との相互作用の中で組み立てられていく、という視座については法的に位置づけられていることが明らかとなった。またこれまでの研究と併せて検討することで、概念を実践に落とし込むために、保育者である自身の行為をメタ的に認知して活動をファシリテーションする能力が前提として求められると考えられることから、保育者養成において視座や思考様式の獲得を重視する傾向があると考えられることが示唆されることが明らかとなった。

②保育者養成を行う単科の短期大学である A 短期大学の事例をもとに検討を行い、ユマニテク短期大学紀要第 6 号にて発表した。研究の内容としては、オンライン授業については以下の三点の複層的な課題が考えられることが明らかとなった。一つ目に、実施の条件となる環境的課題に関するものであり、授業担当者及び受講者の授業実施及び受講に関する物理的な条件に関するものである。二つ目に実践的課題として、授業の構造を検討することで明らかとなった実践上の課題に関するものである。そして三つ目に、オンライン授業そのものの評価における課題に関するものである。特にオンライン授業そのものの評価については、今後も継続して実践を行っていくことが実証的な検討を行っていくために求められることが明らかとなった。

◆教員名：大矢知佳

主要研究テーマ

・小児期における脳・神経活動の評価法の検討 ―運動機能発達の指標―

研究成果の概要

脳において、感覚器官からの情報と運動司令の情報の統合性より身体の動きの調整をしている。この調整を脳と筋の間の神経活動における同調性から評価するコヒーレンス法を用いて運動機能評価の可能性について検討する。この方法を用いた文献を抄読し、運動機能評価としての可能性を示した（投稿中）。測定法を確立させ、成人において、3つの歩行課題（単一歩行、認知運動二重課題歩行、標的課題歩行）

中の神経活動を検討した。単一歩行と比較して、認知運動二重課題歩行では、単一歩行と比較して神経活動が弱くなり、標的課題歩行では神経活動が強くなる傾向を示した（執筆中）。これは、運動課題によって運動制御機能の働きが変化することを示す。来年度は小児を対象とした測定を行い、発育による影響を検討する予定である。

◆教員名：中村真緒

主要研究テーマ

・領域「表現」身体活動に関する研究

・保育者養成校における地域連携活動の教育的効果に関する研究

① 中村真緒「領域「表現」の検討（1）―身体表現に着目して―」日本保育者養成教育学会第 7 回大会，2023 年 3 月．

本研究では，領域「表現」と教科「体育（表現リズム遊び）」ついて，相互の重複項目を抽出・分析し，小学校教育を見据えた幼児教育において，必要な手立てについて検討することを目的とした．領域「表現」と教科「体育（表現リズム遊び）」の教授内容を比較し検討したことで，領域・教科間の関連項目が明らかとなった．幼児期の教育と小学校教育における円滑な連携・接続が求められる中，子どもや教職員間での交流は進んでいるものの「接続を意識した教育課程の編成や指導計画の作成」や「接続を意識したカリキュラムを編成・実施」などについては，十分であるとはいえない．そのため，保育者養成校における教育効果を高めるためには，幼児教育における領域（複数領域）と小学校の教科等との繋がりの理解を深め，それらを現場で発揮できるよう教授することが必要である．幼児教育の「表現」から小学校の「表現リズム遊び」「表現運動」，さらには中学校の「ダンス」に繋がる学習を視野に入れ，保育者は交流だけでなく，学びの繋がりを意識した教育課程の編成や指導計画を検討する力が必要であることが示唆された．

② 中村真緒「保育者養成校における地域連携活動―地域ボランティア実践の教育的効果―」『ユマニテク短期大学紀要』ユマニテク短期大学，第 6 号，2023 年 3 月．

本研究の目的は，保育者に必要な資質・能力の 1 つである「連携・協働」する力の育成について検討・考察することである．近年の保育専門職は，保護者，家庭，地域との連携や協働することが求められ，保育者間だけでなく，保護者，地域等と連携・協働していく必要がある．専門職として質向上のために必要不可欠な力であり，保育者養成校として取り組むべき重要項目である．そこで，「地域ボランティア実践」における実践的な活動について調査した．その結果，子どもとのかかわりや，他者と連携・協働することについては，活動後にポジティブな変化がみられ，授業内だけでは学ぶことができない学生間の人間関係力が培われていることが示唆された．今後は保育者養成校として，経験を重ね「連携・協働」することの大切さを実感するとともに，2 年間という限られた時間の中で実践的な経験を重ねていくカリキュラムの在り方を検討していく．

ユマニテク短期大学

令和　4年度　　研究概要報告書

令和5年3月31日

職名　教授

氏名　鈴木 建生

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	①保育者における効果的なコーチングスキルの活用方法 ②高校生における協同学習への認識と協同学習活動のなかでの行動

研究成果の概要

①保育者における効果的なコーチングスキルの活用方法

短大学の学修の場においてアクティブ・ラーニングを開発するにあたって、ペアワーク、グループワークなどの場面を多用する。そのような場において、情報伝達の際に発信側の意図と受信側の解釈に相違があるミスコミュニケーションが発生したり、対話が曖昧なまま進められ、深い学びを引き起こせなかったりすることが観察される。本年度も「教育方法と技術」「教職概論」「キャリアデザインⅠ」の授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業するために、コーチングスキルを活用した対話活動を実践した。具体的にはテキストとして「信頼関係を築くコーチングスキル養成講座」を用いながら、傾聴の基本から質問スキル、承認のスキルのポイントを確認しながらスキル修得に努めた。特に日常の生活の中で、学生同士のコーチングを通して、ピアサポートの実践を行った。活用方法の分析を行う予定である。

②高校生における協同学習への認識と協同学習活動のなかでの行動

授業において学習者が能動的に学習に参加するよう促す教授・学習法であるアクティブ・ラーニングの高等学校への導入が進んでいる。この学習指導の中核に位置づく協同学習に全校をあげて取り組んでいる高校の生徒を対象とし、協同学習への認識と協同学習での実際の行動について回答を求める質問紙調査を行った。主な結果は次のとおりであった。(1)全般に協同学習のよさが認識され、この認識は学年が上がるにつれて高まる傾向にある。(2)全般に協同学習のなかでメンバーの発言内容の確認、メンバーへの信頼の表明がよく行われている。(3)協同学習への認識と協同学習での実際の行動との間に弱い相関があり、協同学習のよさの認識が高いほど協同学習を前向きに進める具体的な行動をとる傾向がある。これらの結果をもとに、生徒の個人差を考慮してタイプ分けする必要性、生徒が3学年にわたり協同学習の経験を重ねるためにかえって協同学習についての認識が薄れる可能性、授業のなかで協同学習をする生徒の実際の行動を記録する工夫、について考察を行った。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（1）学術論文（1）学会発表等（　　）その他（　3　）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（(あ)り・なし）

更新日	本学の専任教員は、研究業績をresearchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等をresearchmapへ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2023/04/12	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　4　年度　　研究概要報告書

令和　5　　年　3　月　27　日

職名　教　授

氏名　平松　喜代江

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	社会的養護下にある児童の進路実現と支援に関する研究

研究成果の概要

１．学会発表

1)　共著「希望進路を目指すまでのプロセスに関する研究－社会的養護下の高校生への面接調査から－」日本社会福祉学会第 70 回秋季大会、2022 年 10 月

２．論文（学会誌・紀要）

1)　平松喜代江「児童養護施設職員の進路選択における進路観の変化」ユマニテク短期大学紀要 Vol. 7、2023 年 3 月

３．その他発表

1)　平松喜代江「進路実現までのプロセスと支援に関する研究-社会的養護下の高校生および職員を対象として-」中部学院大学大学院中間報告会 2022 年 6 月

2)　平松喜代江「児童養護施設在籍者の大学への進学支援に関する研究」中部学院大学大学院博士課程学位申請論文予備審査会、2022 年 11 月

3)　平松喜代江「児童養護施設在籍者の大学への進学支援に関する研究」中部学院大学大学院博士課程学位申請論文公開審査会、2023 年 2 月

4)　平松喜代江「児童養護施設在籍者の大学への進学支援に関する研究」中部学院大学大学院博士課程学位論文報告会、2023 年 3 月

４．講座

1)　三重県子育て支援員研修「地域保育コース」「乳幼児の発達と心理」講義、2022 年 12 月

2)　放課後児童支援員研修「保護者との連携・協力と相談支援」講義、2022 年 11 月

3)　ユマニテク短期大学入学前講座グループワーク（人間関係）2023 年 1 月

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　0　）学術論文（　1　）学会発表等（　1　）その他（　4　）

国際活動の有無（あり・なし）　社会的活動の有無（あり・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2023 年 3 月 27 日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　４年度　　研究概要報告書

令和　５年　３月 15 日

職名　教授

氏名　　川勝　泰介

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	児童文化財としての絵本の活用について

研究成果の概要

児童文化財としての絵本を保育の中でどのように活用すればよいのかについて、主に昔話絵本を中心に考察し、その成果を昨年に引き続き本学図書館でのミニ企画展において披露した。

今年度は、これまで蒐集してきた「三びきのこぶた」60 冊と「赤ずきん」46 冊に加えて、日本の昔話を代表する「桃太郎」25 冊を比較した。

これらの研究成果は、現在まとめているところであり、近日中に発表する予定である。

また「子ども社会研究」第 27 号（2021 に書評「松崎行代著『遊びからはじまる』（世界思想社、2020 年）」を執筆、さらに『保育職・教職をめざす人のための保育用語・法規』（ミネルヴァ書房　2023 年春刊行予定）に「メルヘン」「宮沢賢治」「紙芝居」「児童文化」「児童文学」「童心主義」の項目について執筆した他、同志社大学社会学部メディア学科竹内オサム研究室発行の『ビランジ』50 号に連載原稿を投稿し、掲載された。

その他、北勢エリアの子育てファミリー応援フリーマガジン『きらきら』における絵本紹介を 2 回担当した。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　0）学術論文（　0）学会発表等（　0）その他（　4）

国際活動の有無（あり・なし）　社会的活動の有無（あり・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　4年度　　研究概要報告書

令和　5　年　2月8日

職名　　特別招聘教授

氏名　　伊藤　康明

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	ICT を活用した領域「環境」の教材開発

研究成果の概要

・授業科目「生活とかがく」「幼児の環境」に関する教材・教具の開発、実験や制作実習教材の作成など、いずれも学生が自然に興味・関心を持つような観点で工夫した。これらの教材は、身近な素材を利用して家庭で復習できるものであり、その結果は学生が Glexa を利用することにより、画像または動画を添付して随時提出する。次回の授業では、これらを一括ダウンロードし、学生間で他学生の実験結果を共有し評価することにした。

・研究のまとめ　「Python による Web スクレイピング」　-教材データを収集する-

Web から科学教材のデータを収集するため、プログラミング言語 Python を使用したツールを開発した。このことにより、授業のパワーポイント教材を制作するための写真素材などが効率的に収集できるようになった。(令和４年度　紀要に掲載)

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　0　）学術論文（　1　）学会発表等（　0　）その他（　　）

国際活動の有無（あり・[なし]）　社会的活動の有無（[あり]・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
年　月　日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　4　年度　　研究概要報告書

令和　5　　年　3　月　22　日

職名　教　授

氏名　安藤　恭子

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	色や形を通して、造形に関わる乳幼児の情操を養い、想像力や表現力を豊かにすることのできる将来の保育者としての能力を培うための教材の開発研究。

研究成果の概要

・幼稚園教育要領や保育所保育指針等における造形表現分野と、今後の在り方を鑑みて教材研究をとりわけ、学習過程の中で実現しながら、学生に学力をつけるようにした。とりわけ、幼児の絵画作品を鑑賞するにあたり、アクティブラーニングの授業を実践出来て、学習効果が上がった。

・教材として使用する身近な材料の収集と、その材料や画材等との組み合わせによる創造的な教材の積極的な開発を行い，製作過程のレシピ化を図った。例えばオープンキャンパスの模擬授業において、乾燥させたユーカリの葉っぱと自在に曲げられるアルミのワイヤーを組み合わせた作品作り等々、創造的な教材研究ができた。

・小学校や幼稚園の絵画指導研究を行い、発達段階での特徴に合った、基本的な絵の具などの扱いの指導法などを学生や教職員に幅広く具体的に伝授できた。

・県民向けのみえアカデミックセミナーの講師として演目「こどもの絵に学ぶ」で講演でき、広く県民の皆さんに発達段階における子どもの表現の特徴とその良さを語り、大人がどう関わるかについて投げかけができて好評を得ることができた

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　1　）学術論文（　　）学会発表等（　　）その他（　2　）

国際活動の有無（あり・なし）　社会的活動の有無（あり・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
4/27	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　4　年度　　研究概要報告書

令和　5年　3月　10日

職名　特任教授

氏名　　山野　栄子

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	・教材研究や授業内容の検討に関すること ・保育者の専門性と保育の質向上に関すること

研究成果の概要

①今年度もコロナ禍でオンライン開催であったが、保育内容の検討や教材等について、日本保育学会・中部地区研究集会・保育政策検討委員会や全国保育士養成セミナー、日本子ども虐待防止学会、三重県小児保健協議会、東海保育保健研究会など様々な研修会に参加して、新しい情報を得たり、教材についても研鑽を積んだりした。その学びを授業や、各種研修会の講座などで活かすことができた。

②コロナ禍で、保育職が担う仕事は「エッセンシャル・ワーク」として注目され重要性が増している。いわゆる他のケア労働と通底するケアの営み・価値などについて「ケア論」を学び、保育職の専門性をケア論の枠組みで考察することを試みた。現職の保育者に保育職の継続・専門性の向上を促進する体験として、「保育が楽しいと感じた場面」「思うようにいかずいらっとした場面」のエピソード収集を行い、分析した。その結果を日本保育学会で「ケア論から見た保育の専門性」と題して発表した。(共同研究者　華頂短期大学・渋谷郁子、ユマニテク短期大学非常勤・小島佳子)

③その他、三重県幼児教育センターのアドバイザーとして、鈴鹿市や紀宝町などの保育者対称に行われた保育の質向上に関する研修の講師を務めた。また三重県保育総合研修会、子育て支援員認定研修会などでも講師を務め、現場の教育・保育の資質向上に研究成果や学びを活かした。また、広く地域の家庭教育学級講座、ファミリーサポート養成講座などで講師を務め、地域貢献にも役立てた。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　　）学術論文（　　）学会発表等（　1　）その他（　20　）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（(あり)・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
4/14	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　4年度　　研究概要報告書

令和 5 年 3 月 14 日

職名　　教 授
氏名　　伊藤　健次

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	障害のある子どもの発達臨床 CLISP-dd 発達検査再標準化に関する研究

研究成果の概要

・CLISP-dd 発達検査再標準化については作業を終了し、出版を待つだけとなっている。しかし、出版社（千葉テストセンター）都合により（理由は不明）、予定がずれ込んで未発行となっている状況にある。

※（ ）に本数をご記入ください。

著書（ 0 ）学術論文（ ）学会発表等（ 0 ）その他（ 0 ）

国際活動の有無（あり・[なし]）　社会的活動の有無（あり・[なし]）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
年　月　日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和４年度　　研究概要報告書

令和　5　　年　3　月　30　日

職名　准　教　授

氏名　桂山　たかみ

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	保育養成課程の学生に対して、音楽指導能力を培うための教材開発や授業研究

研究成果の概要

1.　講座・演奏

・四日市市こども芸術体験事業（講師・マリンバ演奏）2022 年 8 月　他 4 本

・四日市市民大学講座（講師・マリンバ演奏）2022 年 9 月

・四日市市民間文化施設活用事業（マリンバ演奏）2023 年 3 月

・高大連携事業「音楽表現講習」2022 年 10 月、11 月

・ユマニテク短期大学入学前講座（ピアノ入門）2022 年 11 月、2023 年 2 月

四日市市主催による、こども芸術体験事業の一環として、児童・生徒の身近な場で優れた生の演奏や姿に触れるという四日市市の音楽文化の振興と文化の担い手の育成する事を目的とした学校訪問事業に貢献した。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　0　）学術論文（　0　）学会発表等（　0　）その他（　12　）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（(あり)・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
4/21	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　4　年度　　研究概要報告書

令和　5年　2月　22日

職名　　准教授

氏名　　松本　亜香里

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	①　子どもの心身発達にかかわる保育教材および指導法研究 ②　ピアノ演奏技術および表現研究

研究成果の概要

以下の視点を軸に教材研究および指導法研究を深めた。

・こどもの表出や表現をどのように受け止め、そのこどもの姿をどのように捉えるか

・どのようにして保育のしかけを作ること（環境設定）で保育がつながるのか、学生自身が考えられるような授業設定を検討

保育者養成１年次の学生は高校までの教科教育の流れから、保育者養成での学びも科目単 位で区切る傾向がみられる。そこで、１年次前期に開講されている「表現指導法」の授業の試み から、基礎ゼミナールや実習指導まで、科目間の連携により理論と実践の学びをつなげる設定を 工夫した。指導法の土台として、学生自身がそれぞれに具体的な保育者像を描き、こどもとどの ようにかかわっていきたいか、どのような保育を理想とするか、自身に問いかけ学び続けるという 意識付けを目標とした。目標達成に向け、教員間で授業や学生の様子を共有し、授業改善に努 めた。学会発表では、継続して行っている「楽しさ」にかかわる研究を、保育者養成段階での学生の意識について分析を行い、成果をまとめた。本年度は、先にも述べた「こどもの姿の捉え方」と「保育表現指導法」「保育 教材研究」に着目し、学会発表１本を研究成果として残した。また、演奏技術および表現研究について、演奏活動を２回、講演を ２回実施した。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　　）学術論文（　　）学会発表等（１）その他（４）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（(あり)・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和４年度　研究概要報告書

令和５年２月１０日

職名　　准教授
氏名　　田村禎章

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	・地域福祉の主体形成の効果的支援とその方法に関する研究 ・ICT 教育の推進と効果的・効率的な福祉教育実践の在り方に関する研究 ・地域におけるボランティアコーディネート支援に関する研究 ・レクリエーション支援方法に関する実践的研究 ・美容福祉教育の教育カリキュラム設計と教育方法に関する研究 ・ダイバーシティ教育内容と教育方法実践の在り方に関する研究

研究成果の概要

令和４年度は、ユマニテク短期大学の専任教員６年目として、上記研究課題の実践と論証をはかった。以下に記載のとおり、著書や論文をはじめ、講演・研修会の講師実績や、社会的活動は多岐にわたり研究実践をできた。次年度はさらに、論文業績や学会発表をできるよう計画を立てていきたい。

【著書・論文・学会発表・報告書・著作物等】

１）（論文）『教育リフレクション活動の効果的な方法～大福帳ツールの分析比較から～』、ユマニテク短期大学紀要第６号、2023 年３月発刊予定。

２）（論文）『A 幼稚園における発達障がい児への幼児体育指導の実践～レクリエーションを幼児体育指導に取り入れることの有効性の検証から～』ユマニテク教育研究所紀要、2023 年３月発行予定。

３）（学会発表）『ミニレポートの提出日を比較した学習解析』第 47 回教育システム情報学会全国大会（新潟工科大学）、2022 年８月。

４）（学会発表）『県民みんながレクリエーションを実践するミナレク運動～岐阜県とともに取り組んできた成果と今後の展開について～』（公財）日本レクリエーション協会第 76 回全国レクリエーション協会 2022 ひょうご総合プログラム、2022 年９月。

５）（学会発表）「幼児教育におけるダイバーシティ」第 19 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム報告集、2022 年 10 月。

６）（学会発表）『ポストコロナ時代における公開講座の運用事例』、国際 ICT 利用研究学会 第 12 回研究会、2022 年 10 月。

７）（著作物）キラキラ原稿遊び紹介レクリエーションスポーツ『モルック』で遊ぼう！2023 年３月発行予定。

８）（執筆協力）株式会社みらい『福祉保育小六法 2023 年度版』2023 年３月発行予定、850 頁、執筆協力。

９）（科研費研究）『映像教育教材作成支援システムの開発』（基盤研究Ｃ：一般）教育工学関連、2023 年９月申請（採択受審中）。

【社会的活動業績（講演・研修・指導業績等；主なもの)】

1） （社福）川越町社会福祉協議会令和（4年4月）地域に根ざした社会福祉協議会となるために～中堅地域福祉職員研修会～

2） 川越町戦略企画課（令和4年5月）川越町まちづくり対談講師「住民の支え合いで高まるまちづくり活動の極意～川越町での小地域福祉の　活動状況～」

3） 岐阜県レクリエーション協会（令和4年7月）レクリエーションインストラクター講習会「遊びは心と身体のエネルギー～レクリエーションスタッフとして求められること～」

4） 長野美容専門学校（令和4年7月）美容学校における福祉美容研修の意義について

5） 四日市市人権センター（令和4年8月）人権大学講演会「アクティブシニアアクティブシニアに必要なこと～高齢者が活躍する社会に向けて～」

6） 四日市市児童館『児童館まつり 2022』(令和4年8月)「四日市児童館の企画ブースの運営指導」指導講師

7） 池田美容学校・福祉美容講座（令和4年7月）介護職員初任者研修「人間の尊厳と理解、人間関係とコミュニケーション講義」担当講師

8） 玉城町社会福祉協議会（令和4年8月）ボランティア講習会「いきいき楽しいボランティア活動のコツコロナ禍の中で活動再開セミナー」講師

9） 川越町社会福祉協議会（令和4年9月)「川越町天神地区の地域まちづくり活動の活性化へ向けて」まちづくりプラン導入セミナー講師

１０）　三重県児童館連絡協議会「地域援助活動」講師、2023年1月

１１）　四日市社会福祉協議会「おもちゃ図書館　ボランティア養成研修」講師、2023年2月

【社会的活動業績（公的組織等における学識経験委員等；現職のみ)】

1）三重県川越町社会福祉協議会　地域福祉教育推進アドバイザー　（地域福祉活動計画策定支援）

2）三重県玉城町社会福祉協議会　顧問・地域福祉共育アドバイザー（地域福祉活動計画策定支援）

3）一般社団法人岐阜県レクリエーション協会　専務理事（レク・インストラクター養成指導、市町村レクリエーション協会活性化支援、岐阜県行政「ミナレク運動」政策立案）

4）関市レクリエーション協会副会長、瑞穂市レクリエーション協会副会長、美濃市レクリエーション協会理事長、岐阜県パターゴルフ協会理事長、岐阜県キンボール・スポーツ連盟理事（地域レクリエーション運動の推進、生涯スポーツ・レクリエーションの普及、福祉レクリエーションの指導）

5）公益財団法人岐阜県スポーツ協会「岐阜県民スポーツ大会」大会副委員長（岐阜県民スポーツ大会の企画、運営支援）

6）文部科学省委託事業：「分野横断型リカレント教育プログラム開発（介護・保育分野における異世代間の交流促進のための分野横断型教育プログラム開発事業)」実証講座企運営会委員（専修学校卒業者におけるリカレント教育促進プログラムの開発、効果実証研究委員）

7）コンソーシアム三重、地域貢献部会委員（ダイバーシティ推進教育設計、研修支援）

8）川越町子ども・子育て会議　会長（川越町子ども子育て政策に関する学識経験者）

9）一般社団法人オレンジリボン岐阜ネット（岐阜県・児童虐待防止ネットワーク公的組織）　監事

※（　）に本数をご記入ください。

著書（0）学術論文（2）学会発表等（4）その他（3）

国際活動の有無（あり・なし）　社会的活動の有無（あり・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2023年2月1日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和４年度　　研究概要報告書

令和　　5年　3月　24日

職名　講師

氏名　伊藤　喬治

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	①ノルウェーにおける保育者・教員養成制度に関する研究 ②高等教育機関における ICT ツール導入の課題に関する研究

研究成果の概要

① 伊藤喬治「ノルウェーの保育における遊びと「民主的であること」の関係についての一考察―保育者養成の視点から―」日本保育学会第 75 回大会、聖徳大学、2022 年 5 月。

本研究では、ノルウェーの保育現場で頻繁に用いられている概念である「民主的であること(demokratik)」について検討を行った。根拠法では直接的に民主主義的という言葉で言及している部分は多くなかった一方で、多様な幼稚園の活動に対して子どもたちが意志を表明し主体的に参加すること、保育のカリキュラムは子どもと保育者との相互作用の中で組み立てられていく、という視座については法的に位置づけられていることが明らかとなった。またこれまでの研究と併せて検討することで、概念を実践に落とし込むために、保育者である自身の行為をメタ的に認知して活動をファシリテーションする能力が前提として求められると考えられることから、保育者養成において視座や思考様式の獲得を重視する傾向があると考えられることが示唆された。

② 伊藤喬治「オンライン授業における複層的課題に関する一考察　―授業実践及び体制構築の視点から―」『ユマニテク短期大学紀要』ユマニテク短期大学、第 6 号、pp52-63、2023 年 3 月。

本研究では、保育者養成を行う単科の短期大学である A 短期大学の事例をもとに検討を行うことで、オンライン授業については以下の三点の複層的な課題が考えられることが明らかとなった。一つ目に、実施の条件となる環境的課題に関するものであり、授業担当者及び受講者の授業実施及び受講に関する物理的な条件に関するものである。二つ目に実践的課題として、授業の構造を検討することで明らかとなった実践上の課題に関するものである。そして三つ目に、オンライン授業そのものの評価における課題に関するものである。特にオンライン授業そのものの評価については、今後も継続して実践を行っていくことが実証的な検討を行っていくために求められることが明らかとなった。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　　）学術論文（　1　）学会発表等（　1　）その他（　2　）

国際活動の有無（あり・[なし]）　社会的活動の有無（あり・[なし]）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください

ユマニテク短期大学

令和４年度　　研究概要報告書

令和５年３月 20 日

職名　助教
氏名　大矢　知佳

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	子どもの身体・運動機能の発育発達について

研究成果の概要

現在執筆中

脳において、感覚器官からの情報と運動司令の情報の統合性より身体の動きの調整をしている。この調整を脳と筋の間の神経活動における同調性から評価するコヒーレンス法を用いる。昨年度に測定法を確立させ、成人において、３つの歩行課題（単一歩行、認知運動二重課題歩行、標的課題歩行）中の神経活動を検討した。単一歩行と比較して、認知運動二重課題歩行では、単一歩行と比較して神経活動が弱くなり、標的課題歩行では神経活動が強くなる傾向を示した（現在執筆中）。これは、運動課題によって運動制御機能の働きが変化することを示している。来年度は小児を対象とした測定を行い、発育による影響を検討する予定である。

2022 年 7 月 Journal of Physical Education and Sport, 22 (7), 1732-1741. 掲載

体育の楽しさには複数の要因があり、その要因は性別や体育の好き嫌いの度合いによって異なる。小学 5・6 年生を対象としたアンケート調査より体育の楽しさは、目標を立てて挑戦し、それを達成できることにあると推察された。また、女子では、見る、支える、知ること、体育が好きでない児童は、他者との関わりの中で楽しさを感じ、特性によって、身体活動の楽しさが異なることを示した。

Chika Oya

Yujiro Ishihara (東筑紫短期大学)

2022 年 8 月　Journal of physiological Anthropology, 41, No.28. 掲載

二重標識水法は正確な総消費エネルギー測定法として考えられ、エネルギー必要量の見直しに利用される。就学前の日本人小児を対象として評価した結果、3-4 歳児は現在の厚生労働省が示しているものとほぼ同じであるが、5-6 歳児は推奨値よりやや高い値を示した。

Keisuke Teramoto (愛知教育大学)

Chika Oya

2022 年 10 月　学校保健研究, 64 (3), 248-258

幼児のエネルギーバランスの状況を明らかにし、エネルギーバランスと食行動・身体活動などの生活習慣、および親の食意識との関係を検討した結果、エネルギー収支の平均値は全員適正範囲内であったが、個人差が見られた。エネルギー摂取量の過多と身体活動の少なさがエネルギー収支をプラスとしており、保護者の食に対する意識は、子どもの過剰なエネルギー摂取に影響を与えることを示した。 村松愛梨奈（愛知教育大学） 大矢知佳
※（　）に本数をご記入ください。 著書（　）学術論文（3）学会発表等（　　）その他（　　） 国際活動の有無（あり・[なし]）　社会的活動の有無（[あり]・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2023 年 2 月	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和４年度　　研究概要報告書

令和５年３月31日

職名　助教
氏名　中村　真緒

下記の通り研究成果の概要を報告いたします.

主要研究テーマ	①領域「表現」身体活動に関する研究 ②保育者養成校における地域連携活動の教育的効果に関する研究

研究成果の概要

① 中村真緒「領域「表現」の検討（1）−身体表現に着目して−」日本保育者養成教育学会第７回大会，2023年３月.

本研究では，領域「表現」と教科「体育(表現リズム遊び)」ついて，相互の重複項目を抽出・分析し，小学校教育を見据えた幼児教育において，必要な手立てについて検討することを目的とした．領域「表現」と教科「体育（表現リズム遊び）」の教授内容を比較し検討したことで，領域・教科間の関連項目が明らかとなった．幼児期の教育と小学校教育における円滑な連携・接続が求められる中，子どもや教職員間での交流は進んでいるものの「接続を意識した教育課程の編成や指導計画の作成」や「接続を意識したカリキュラムを編成・実施」などについては，十分であるとはいえない．そのため，保育者養成校における教育効果を高めるためには，幼児教育における領域（複数領域）と小学校の教科等との繋がりの理解を深め，それらを現場で発揮できるよう教授することが必要である．幼児教育の「表現」から小学校の「表現リズム遊び」「表現運動」，さらには中学校の「ダンス」に繋がる学習を視野に入れ，保育者は交流だけでなく，学びの繋がりを意識した教育課程の編成や指導計画を検討する力が必要であることが示唆された.

② 中村真緒「保育者養成校における地域連携活動―地域ボランティア実践の教育的効果―」『ユマニテク短期大学紀要』ユマニテク短期大学，第６号，2023年３月.

本研究の目的は，保育者に必要な資質・能力の１つである「連携・協働」する力の育成について検討・考察することである．近年の保育専門職は，保護者，家庭，地域との連携や協働することが求められ，保育者間だけでなく，保護者，地域等と連携・協働していく必要がある．専門職として質向上のために必要不可欠な力であり，保育者養成校として取り組むべき重要項目である．そこで，「地域ボランティア実践」における実践的な活動について調査した．その結果，子どもとのかかわりや，他者と連携・協働することについては，活動後にポジティブな変化がみられ，授業内だけでは学ぶことができない学生間の人間関係力が培われていることが示唆された．今後は保育者養成校として，経験を重ね「連携・協働」することの大切さを実感するとともに，２年間という限られた時間の中で実践的な経験を重ねていくカリキュラムの在り方を検討していく.

※（　）に本数をご記入ください.

著書（　　）学術論文（　1　）学会発表等（　1　）その他（　2　）

国際活動の有無（あり・[なし]）　社会的活動の有無（[あり]・なし）

※概要を記載し，必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し，補足すること．

※共同研究を行っている場合は，共同研究者氏名・所属も記入し，下線を引くこと．

更新日	本学の専任教員は，研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています．今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します．左記に更新日をご記入ください．

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので，秘匿性のある情報（研究アイデア，知財情報，個人情報）の記載は行わないようご留意ください